

感動がいっぱいの秋季大運動会

残暑の中、3週間みっちり練習した成果を発揮して、一生懸命に取り組む加美らしい運動会を見させていただきました。来賓の皆様や保護者・地域の皆様が見守って下さる中、「つかみとれ 光輝く ナンバー1」のスローガンの下、みんなが熱く燃えた1日となりました。一人一人が自分のために、自分の色別集団のために力を出し切りました。リーダーの6年生を中心にまとまった色別集団で競った応援合戦。低中高で工夫を凝らした表現活動。今年から縦割りやペア学年の種目をリニューアルしました。集団で協力し、最後まであきらめず一生懸命取り組む子どもたちの姿は、まさに光り輝いていました。今年度も自分のもてる限りの声と体を使い、精一杯走ったり表現したりする加美っ子の頑張りに感動しています。一人一人がみんな「光輝く ナンバー1」でした。みんなで本気で頑張った後に、子どもたちは、さわやかな気持ちを味わえたのではないのでしょうか。



整然と並べられた靴

来賓の皆様からは、「どの子も一生懸命に演技していて素晴らしい。」「競技だけでなく応援テントでの様子も素晴らしいですね。」と褒めていただきました。「感動しました。」と言って下さる保護者の皆様のことばも大変うれしかったです。加美小学校の運動会の良き伝統は、競技に全力を尽くす子どもたちの姿だけではありません。応援テントに整然と靴を並べること、ブルーシートの上の土を自分たちで掃き掃除することもです。上の学年の子どもたちが下の学年に教え、みんなで頑張ろうとする姿はとてもステキです。これからも加美小学校の良き伝統を守ってほしいと思います。学校行事での頑張りが、日々の授業や活動でも生かされるよう、担任を中心に全教職員で支援してまいります。今後とも、子どもたちが頑張っ

てゆけますよう温かい励ましのことばかけをよろしくお願いいたします。

保護者の皆様、練習中お茶の準備や体調管理をしていただき、ありがとうございました。また、前日の準備、当日の応援・片付けにもご協力いただき、心より感謝いたします。

組体操



白組



黄組



赤組



青組



6年
親子
競技



8月末・9月の行事から

8月末から9月の行事を
紹介します。



2学期始業式



台風11号のため1日遅れで、8月30日(火)に2学期の始業式を行いました。夏休みを充実して過ごせたのか、しっかり日焼けした元気そうな顔に頼もしさを感じました。2学期も学習をがんばること、感謝の気持ちを忘れないこと、人と接するとき気をつけることなど先生方から話をしました。2学期も元気で頑張ってくれることを期待しています。

百々人形制作

昭和初期から柵原百々地区に伝わる伝統工芸です。30日(火)に保存会の皆さんに指導していただき、百々人形作りに6年生が挑戦しました。今回は、粘土で、愛らしいだるまの土鈴人形の成形をしました。乾燥・素焼きをしていただいた後、思い思いの色つけをします。学習発表会や加美ふるさと祭りに展示しますので、完成を楽しみにして下さい。



避難訓練(不審者対応)



8月31日(水)に、不審者が侵入したときの対処の仕方学ぶための避難訓練を実施しました。放送を聞いて教室に待機した後、今回はランチルームに避難しました。避難後、被害に遭わないようにするために岡山県県民生活部くらし安心安全課の木下さんに「安全シュミレーション学習」をしていただきました。「お母さんが事故に遭ったから、一緒に病院へ行こう。」と声をかけられたらどうするかなど、具体例を挙げながらのお話を聞きました。

ぶどう収穫体験

9月1日(木)に頼元の黒瀬農園で、ぶどうの収穫をさせていただきました。自分の名前を書いた袋を探し、大きくなった房をやさしくもって、はさみで枝を切り取りました。ピオーネは、大きな実をつけ、甘い香りを放っていました。3年生は、ぶどう狩りを楽しませていただき、ニコニコしながら大きなぶどうを持って帰りました。黒瀬さん、今年も良い体験をさせていただき、本当にありがとうございました。



朝礼(柴原教育長さんのお話)



9月5日(月)の朝礼に柴原教育長さんに来ていただきました。リオオリンピックや中学時代頑張っていたバレーボールのお話などを通して、「好きだからがんばれる」という言葉を子どもたちに贈って下さいました。筆で書かれたその言葉は、ランチルームに掲示しています。

教育実習生

9月5日(木)から加美小学校の卒業生である就実大学の花房直美さんが養護教諭の教育実習に来ていました。運動会の練習期間、子どもたちとさまざまな活動とともにしながら、5年生で保健指導の研究授業にも取り組みました。



子どもたちの心を豊かに、

大きく、あたたかく育てるために！



乳幼児期は、人格形成の大事な土台を形成する時期です。「三つ子の魂百まで」という先人のことは、深い真実を含んでいます。その土台の上に、家でいうなら柱を立てたり、壁をつくったりという人格形成の時期が小学校時代です。土台の時代には、周囲の人間に対する基本的信頼感を身につけます。「泣いたらあたたかい腕にだっこしてもらえる」ということを繰り返すうちに「絶対的な信頼感」を知るそうです。「信頼感」を知らない子どもは「自律心」も「主体性」も育ちません。

小さな失敗の繰り返し → 「取り返しのつかない失敗」を避けることができる

反抗は成長の証（自発性が育っている証拠）

親としてゆとりを持って見守りたい！

社会的に自律して行動できる人になるためには、人を信じ、自分を信じる必要がある。
そのためには、親との人間関係が重要。

親に愛される → 信頼する → 自分の価値を実感する → 人を信じることができる

花を育てるとき、水やりをしたり、肥料をやったり、寒さよけをしたりと、いろいろ手をかけて花が咲くのを待ちます。子育ても同じです。大変だと思ふときがあるかもしれませんが、大事なことは何度でも伝えながら、時間がかかっても子ども自身に決めさせるなど、辛抱強く待つことも大事なことです。

「過干渉」 → 欲求不満 → 自立できない
子どもが望んでいないことを親が一方的に言ったりしたりすること。親が望むものだけを与えることは避けたい。

「過保護」
水や肥料のやり過ぎに注意。手塩にかけて育てる＝スキンシップが大事。

金銭でほしがるものを買う
与えることは節度が必要。
もので心を満たす育児は、
欲求不満の感情をエスカレートさせることがある。

存在価値を十分に認められて育った子、
親に認められ安心して育った子は、
自分自身の価値を知り、自尊心をもつことができる。

『子どもの心の育て方』 佐々木正美 著より

